

第70回 明の成立

1 元の崩壊と明の成立



本当の朱元璋
貧農出身の乞食坊主
から身を起し、皇帝
にまで登りつめた。
人間とは思えないよう
な顔をしていたらしい。

- 14世紀半ば以降、世界的な天候不順や内紛、また君主がチベット仏教（ラマ教）にはまったことにより、元は極度の財政難におちいった。
→（ ）を乱発したため、経済は大混乱となった。
- 1351年、弥勒仏の下生信仰を説く（ ）が大反乱を起こした。
※この農民反乱を（ ）という。
→紅巾軍の兵士（ ）が、1368年、（ ）を建国した。
→元は中国を捨ててモンゴル高原に撤退し、（ ）として存続した。

☆明（1368～1644年）

都…（ ）（応天府）

◆朱元璋（ ）在位 1368～1398年）

- 長江下流域の穀倉地帯をおさえ、中国を統一した。
※なお明は、江南に建国して中国を統一した唯一の王朝である。
- 洪武帝の時代以降、（ ）がはじまった。



朱元璋の墓
南京には、朱元璋の墓
が残っているが、地下
宮殿がまだ未発掘であ
り謎が多い。近くには孫
権の墓もある。

<明の統治制度>

- 朱元璋（洪武帝）は、皇帝権力の強化をめざした。
→（ ）し、行政機関の（ ）を皇帝の直属とした。
- また軍事機関の五軍都督府や、監察機関の都察院も皇帝の直属とした。
- 朱子学を官学として、科举制度も整備した。
- （ ）・（ ）という法律を制定した。
- 土地台帳である（ ）と、戸籍や租税台帳である（ ）
をつくり、それに基づいて税金を徴収した。
- 農民を（ ）として管理し、（ ）という連帯責任制度を作った。
→さらに（ ）という教訓を出し、民衆を従順にしようとした。
※（ ）と呼ばれる年長者が、責任者として秩序の維持に努めた。
- 兵制では、（ ）という兵士を出す家から
兵士を集める（ ）を始めた。



美化された朱元璋

朱元璋には、いくつ
かの肖像画が残され
ている。実際の顔に
近いのは、プリントの
上にある肖像画だろ
う。独裁者にはよくあ
ることである。



紅巾の乱(中国ドラマ「大明帝国」より)

紅巾の乱は、左の写真
のように、反乱軍が紅
の頭巾をかぶっていた
ことに由来する。黄巾
の乱と区別すること。
このドラマは、朱元璋役
がかつこすぎて不満。



魚鱗図冊

魚鱗図冊には、土地
の面積とそれに応じ
た税額、さらに所有
者の名前が記入され
ている。
魚の鱗に似ているた
め、こう呼ばれた。



建文帝
死んだとも南方に逃げたとも言われる。

2 靖難の役と永楽帝の時代

◆ () (在位 1398~1402 年)

- 皇帝の力をさらに強めるため、各地の王をつぶそうとした。
→1399 年、() の朱棣が反乱を起こした。
※この事件を () といい、建文帝は行方不明となった。



永楽帝
朱元璋(洪武帝)の四男である。宦官を積極的に用いて、権力を握った。勘合貿易も永楽帝の時代に始まった。

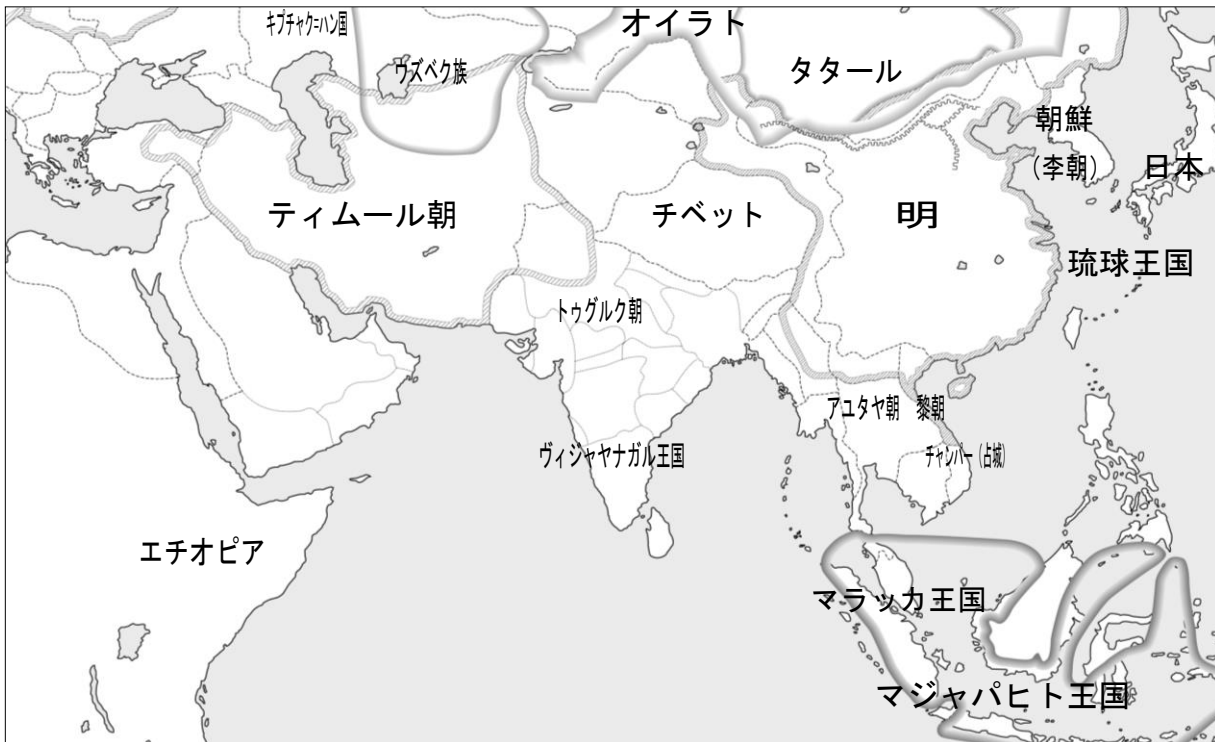
◆ () (在位 1402~1424 年)

- 1402 年、靖難の役が終結し、燕王の朱棣が永楽帝として即位した。
→都を金陵(南京)から、自らの本拠地である()に遷した。
- 皇帝の補佐として、()をおいた。
※事実上かつての宰相と同じ役割であった。

- 儒学者からの批判をそらす目的もあり、大百科辞典である『
』を編纂させた。
- 朱子学が官学だったため、『
』・『
』・『性理大全』
など儒教の注釈書も編纂させた。

<永楽帝の外征>

- () やベトナムなどに対して積極的な遠征を行った。
→ベトナムの()には撃退されたが、後に和平して朝貢国となった。
- イスラーム教徒の宦官()に命じて、7度の南海諸国遠征を行わせた。
→東南アジア、インド、アラビア半島、アフリカにまで達し、インド洋に面した多くの国が明に朝貢するようになった。



鄭和
アフリカ東海岸のマリンディまで行った。部下はメッカにも巡礼している。



捕まえたキリン
アフリカではキリンを捕まえて、中国まで連れて帰った。